

12 葦刈りの循環型システム構築を目指す

遠賀川のゴミ減量作戦 「葦の利活用を図る」

団体名 特定非営利活動法人
遠賀川流域住民の会

主な活動地域 嘉麻市大隈町「嘉穂水辺の楽校」周辺



目的

22市町村、127万人がその水を利用している遠賀川の汚染度は、九州の一級河川ではワーストワンとされる。なかでも上流から流れ出るゴミ、その8割をしめる葦の枯草などの自然ゴミは大きな問題となっている。同団体では、ゴミを減らし、かつ、水質を浄化し川を美しくする目的で、定期的に上流・支流に多く繁殖している葦を刈る。さらに、それを堆肥化したもので水稻のブランド化などを図り、葦刈りの循環型システムを構築する。

実施内容

葦には排水の汚れを吸収する浄化作用があるが、枯草はゴミになる。今回の葦刈りの対象となるのは、遠賀川の上流、嘉穂町内を流れる約2キロの範囲。葦刈りは、町の住民などボランティア約70名を動員し、2日間かけて行う。夏2回、冬2回の年4回を予定している。夏場に刈り取った葦は堆肥小屋に搬入し、地元の農家に委託して半年かけて堆肥化する。これを流域の河川愛護団体などで家庭菜園に利用し、6月には葦の堆肥のみで水稻の作付けも行う。これはまだモデル活動であるが、遠賀川の流域全体で取り組めば、問題になっている芦屋河口堰や海岸の葦の枯草のゴミは軽減されるに違いない。

選考委員のひとこと

同団体は遠賀川全域に渡って清掃活動をするなど、実績も充分な団体である。今回の活動を機に、遠賀川全流域に保全活動の輪が広がり、いつか元の綺麗な遠賀川が再生することを期待したい。

TOTO 水栓事業部 Yさん記

ボランティアに参加しよう！

- ★葦の堆肥完成 2010年 2月
- ★遠賀川流域の河川愛護団体に堆肥の利用を促進 2010年 4月
- ★葦の堆肥のみで水稻作付け 2010年 6月



流域での幅広い活動内容についてヒアリングを実施



葦が多く繁殖する遠賀川沿い約2キロを視察



流域のゴミの8割は枯草などの自然のものだ